

福岡県建築鉄骨協議会創立20周年記念座談会

出席者 (敬称略)

堺 純一 (福岡大学工学部建築学科 教授)
尾宮 洋一 (一般社団法人日本建築構造技術者協会九州支部 顧問)
内山 孝弘 (福岡市住宅供給公社 理事長)
矢野 克馬 (北九州市建築都市局建築部建築課 課長)
津田 恵吾 (北九州市立大学 名誉教授)
城戸 將江 (北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科 教授)
松田 千恵 (一般社団法人日本建築構造技術者協会九州支部なでしこ会 会長)
鶴田 陽一 (工業組合福岡県鉄構工業会 理事長)
古賀 道夫 (工業組合福岡県鉄構工業会 技術委員長)
司 会
隈 勇一郎 (工業組合福岡県鉄構工業会 事務局長)
和田 徹 (株式会社鋼構造出版 副部長)



堺 純一 教授

隈 今回の座談会では、10周年での内容を踏まえて、出席者の皆様に語っていただきます。テーマは人材確保(獲得)、育成、働き方改革、女性活躍などに絞ってとなっておりますが、それらの項目だけでなく、会の今後のためにいろいろなお話を語って頂ければと思います。まずは最初に、あらためて、堺先生に設立の経緯と目的について、お願いします。

堺 10周年の時に、河野先生、福岡県鉄構工業会の中野前専務理事を中心にお話されたように、鉄骨業界におけるより一層の品質管理強化と地位向上をさせていかなければならないとして、東京都千代

田区の不良鉄骨問題もあって、建築鉄骨の設計、品質、検査など多くの課題を抱える中それらを解決するためにはファブだけでなく行政や設計関係者等の協力が必要だった、というのが当時の背景としてありました。九州では既に、熊本県に鉄骨問題協議会があった事で参考にさせて頂いたという経緯があります。あ



内山 孝弘 理事長

らためて、学術、行政、ファブ、設計の各関係者のご尽力とご理解に感謝申し上げたい。

隈 それでは、各テーマについて、堺先生から。大学、特に工学部の生徒数や現状について。

堺 ご存じのように、日本の人口減少が続く中で、若い人口も当然減り、それに合わせて、大学の受験生自体も減っています。こうした中で、理系離れで工学部受験者数も減少しています。各大学、工学部を含め受験生を対象に各学部に興味をもってもらうため、出前講義なども実施しています。土木系学科の志願者数減少に比べると、建築系学科の

志願者数も減少しているものの、まだ、“建築”に対する“憧れ”に近いものを抱いている高校生はある一定数あるように感じます。これは女性の方が多いような気がします。福岡大学建築学科で言いますとだいたい1学年100名で、学生数の4割が女性で、10年前より1割増えています。

内山 福岡市では今、建築職の男性240名、女性87名です。最近、行政での建築の仕事に対し、女性職員から良好な反応が多い。これは、かなり興味を持って仕事に向き合っていることがうかがえます。



矢野 克馬 課長

矢野 北九州市でも、建築行政への興味の深い女性が多いようで、現在、当課の16人の職員のうち、8名が女性です。また、中途採用が多いのですが、学歴関係なく採用されています。しかし、中途採用が多い一方、辞めていく人も少なからずいて、男女関係なく、30代、40代の年齢層の方が少なく、世代間ギャップの広がりをお心配しているところです。

和田 女性の多さ、活躍などの話が今、中心的となっていますが。ファブの立場から、近年、女性を多く採用している古賀さんから何か。

古賀 当社はここ数年で会社のグレードもアップすると同時に積極的な採用活動を続け、女性の比率も年々上昇しています。働き方改革を進めていくと、自然に社員から会社の良い社風が就職活動される学生の方へ伝わり、若手の採用数が増えています。就業規則を改定し、休みやすい環境を意図的に作ったり、女性の制服をオーダーメイドにしたりと男女関係なく、若手の応募が増えています。私は会社の中で家庭を第一、仕事を第二という考えで仕事に取り組んでいます。

和田 女性の立場から松田さんいかがですか。



松田 千恵 会長

松田 建設業界で働くすべての女性は、けんせつ小町という愛称で呼ばれています。最新の統計で、けんせつ小町は全体の約8%のようです。建築士の合格率は3割が女性です。私自身、構造設計業界の女性だけの組織で「なでしこ会」の会長を務めさせて頂いていますが、そのメンバーの中で、女性だから、という視点であまり意識しないようにしています。（女性を特別に扱くと逆差別のような気がしますから。）現代の女性の一つの話ですが、例えば、ヘルメットを被ると髪が乱れる、とかこんな理由で職業の選択肢から外す学生がいるのも現実です。やはり、働き方改革、女性活躍という流れの中で、考えさせられることが多いです。

和田 少し話題を変えて。尾宮さんが鉄鋼連盟のサブネットワークで座長をされていた際、人材獲得に向けて、学生に対して「見て、触って」と題し、小中高生向けに建築鉄骨の仕組みを、座学とものづくりを経験することで学んでもらうプログラム。実は、私個人的に、実によく考えたな、と思いました。



尾宮 洋一 顧問

尾宮 ありがとうございます。やはり、あらゆる業界と一緒に、体験に勝るものはないと考えます。大学生も巻き込んで、スチールネズミの製作からパスタタワーの競争講義の準備から運営まで一緒に検討しました。小中校生から専門学校の学生までを対象に出前講座とものづくりを通して、形（模擬建築）にすることへの興味・体験から実際の就職での業界選択までつながれば、との思いでの企画でした。

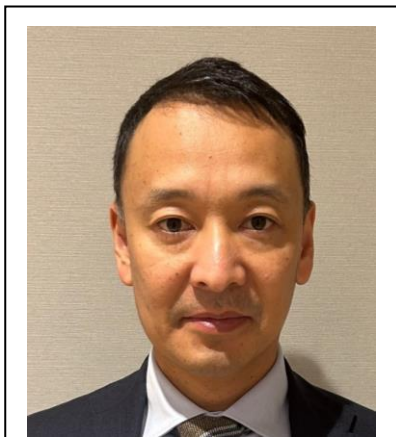
松田 その企画には、私も携わりました。北九州ゆめみらいワーク（企業紹介展）を訪問した際、そこで鉄製板からスチールネズミを制作するブースがありました。そこで、これは、業界の企画や学生向けに何かできるんじゃないか、これはいけるんじゃないか、と閃きました。尾宮さんを始め、構造設計者の他のメンバーの方と一緒に、活動することになりました。

尾宮 ものづくりの現場はやはり楽しく、小中校生も専門学生も年齢関係なく、成果物を製作しようと、本当に真剣な眼差しで取り組んで頂いてありがたかったです。

矢野 業界を知ってもらうための手助け、手を動かす作業を見せる、体験する。それが参加者の意識に残っていく。大変すばらしい企画だと思います。

隈 今度は、少し、学生の就職事情について、行政の立場から何か。

内山 やはり、どこも一緒だと思いますが、高校生、大学生とこちら側との間で、実際に入社してからの考え、感覚の「ミスマッチ」があります。これら解消



古賀 道夫 委員長

のためには、あらためて、インターンシップに力を入れる必要性を感じています。

古賀 そうですね。まずは、業界そのもののことを知ってもらうことが大切かと思います。今、当社も含めて、人材確保が大変厳しい状況に置かれています。業界PRもなかなか学生さんには理解されにくく、実際のところ縁故で頼るしかないというのが現実です。

隈 古賀さんからは他に何か。

古賀 まず、鉄骨は、構造体の中でも国民の安全を守るという視点から重要な地位を占めているものと認識しています。ただ、鉄骨造を取り巻く環境は良いはずなのに、なぜ同業者が減少していくのか、やはり、業界に対する世間一般の評価が低いことに尽きるのか。人材、会社が減っていけば、鉄骨の安定供給ができなくなります。

内山 古賀さんの言われるように、鉄骨だけでなく、建設業全体で人材確保が大変厳しいと聞いています。働く満足感を得られないと離職率が高くなるのはどの産業も一緒ですが。今、学生は多様な視点から就職先を探しています。例えば、企業がSDGsに取り組んでいるとか。環境への負荷で鉄骨造は他の構造と比較しても優位性はあると思っています。

隈 鉄骨品質の安定と品質確保・保証は業界として常に話題になる課題、テーマです。



鶴田 陽一 理事長

鶴田 確かに、九州地区では海外から例えば半導体工場の建設で、従業員を募集すると、賃金面で我々業界の企業と格差が生まれ、その高い方へ人は流れる。ただ、本当に当該企業で就職して半永久的に働き甲斐を保てるか、は疑問に思っています。また、今業界としては、外国人労働者に注目していて、業界として鉄骨業種を「特定技能の指定」として経済産業省へ働きかけていて、これが実現すれば、相応の人材確保ができるのではないかと期待しております。

内山 建設業界全体で、人材を増やしていくためには、やはり鶴田さんが言われたように、業種指定を早く取得され、それが地



津田 恵吾 名誉教授

位向上につながって、人材確保が容易となる業界にしていく必要がありますね。行政の立場として、人材確保では、働き方改革の内容を各施策にいかんにか落とし込んでいくかにかあるかと思えます。行政の立場でも、今、例えば週休 2 日制をモデルとした工事、また、毎年度、年度末に集中する工事の平準化として、完了を次年度の 4~5 月にするなど負担の少ない工期の設定などを実施していきます。

隈 今回、ご出席のそれぞれの立場から、人材確保の現状や課題、また昨今の働き方改革を推進する上で、どう取り組み、何が必要かお話頂きました。

あらためて、鉄骨業界の今後のために、産官学で取り組んでいくべきかについて、最後にお話しいただきたいと思えます。

津田 私も河野先生のと、2代目の会長を務めさせていただきましたが、10周年の時にも触れましたが、三位一体で動くことの難しさ、形骸化せずに活動をどう続けていくか。20周年を迎え、さらにこの会が継続していくために、皆さんと一緒に考えていくことができればと思えます。個人的にはとにかく、イベントなどをたくさん企画して、学生にもつと鉄骨の魅力を伝える、そうした場がたくさん持てればと思えます。



城戸 将江 教授

城戸 やはり、「ものづくりの現場」をたくさん見せる、見てもらう場を、教育する立場として設けられると良いと思っています。百聞は一見に如かずですから。たくさん学べる、聞ける場を。

堺 会議室での座学、勉強会的なことだけでなく、ファブさんや素材、機械メーカーなどあらゆるものづくりの現場を学生さんたちと一緒に見学できればと思えます。

尾宮 イベントなどの企画は大賛成で、とくにコミュニケーションがもっと多くとれる場の提供が必要かと。

矢野 職員全体を見ると、鉄骨のメリットがどこにあるのか、知らない方も多くいるのではないかと。また、新人職員がどう鉄骨と関わっていくべきか。

内山 鉄骨造には、「~のポイントがある」という風に製作側から、色々なメリットを伝える場の提供があつていいのではないかと。

堺 確かに、製作する側の対外的な PR 活動が会の活動においては少なかつた



隈 勇一郎 事務局長

かもしれない。10周年の時にも、ファブ側の説明と言いますか、発言がそんなに多くなく、もっと話してもらう機会を増やしてもらえれば。例えば、人材確保の解消策の一つとして、省力化、省人化に業界がどう取り組んでいるかなど。

鶴田 この産官学連携の場で、鉄構業界がどうあるべきか、その課題にどう取り組んでいくべきか、皆様と一緒に考えて頂ける場であり、これから色々な話題を提供させて頂いて、意見を頂ける機会が増えれば。

古賀 そうですね。鉄骨造のメリットをどう伝えていくか。この場を借りて、また参加されていない学生の方向けにも何かPR活動できればと。

松田 私自身、設計する立場として、多くのものづくりの現場を知りたいと思っています。また、一般市民向けに何かPRできる場があればいいのですが。

城戸 ワークライフバランスを基本ベースに働き方改革を推進し、仕事と育児を両立できる社会を男性も一緒になって考える。そういうしくみを作らなければ、結果的にこの鉄構業界にも目を向ける人が少なくなります。この会で、そうした観点からも、連携していければと思います。

尾宮 年間サイクルで、ものづくりの原点として色々な見学会をすべきで無いですでしょうか。学生さん向けには公開イベントも必要と思います。

内山 一般市民に知ってもらえる色々な仕掛けを作っていければ。若い人に魅力を伝えられる。建物には寿命がありますが、鉄骨造は比較的長寿命化を図れる構造であり、それをしっかり伝えられる場となり、福岡県の街の発展につなげることができれば。

津田 10周年の時にも話しましたが、この20年、高品質の建築鉄骨の健全な普及・発展のために継続してやってきた事業をこれからも継承し、やれることから実施していくことが大切だと思います。

和田 こうして20周年を迎えられたのも、ここにご出席の方々と創立からずっと携わられた方々のおかげかと思います。今回の皆様のご発言の中に、今後の会のさらなる発展のために、何が課題で、どのように行動していけばよいかのヒントがたくさんあったかと思います。次の10年後も、皆さんとこの場でお会いできること、楽しみでなりません。今回の設営準備等、司会の隈さん、ありがとうございました。出席者の皆様、長時間、ありがとうございました。